
2015年度(第93期)事業報告書

技術と社会部門：

部門長 綿貫啓一 運営委員 44名，総務委員 15名

運営委員会開催 2回，総務委員会開催 4回

1) 部門運営委員会およびそのもとに設置された総務委員会，広報委員会，表彰委員会，機械遺産委員会，ロードマップ委員会，ホームページ管理運営委員会，国際会議実行委員会，イブニングセミナー企画委員会，イブニングセミナー実行委員会，工学・技術教育委員会で部門運営にあたった。

2) No.15-1 2015年度年次大会(9月13～16日，北海道大学)において，OS 4件(部門単独3件，機械力学・計測制御部門と合同1件)，WS 2件(部門単独)を企画・開催した。OSの内訳は，S201 機械技術史・工学史 6件，S202 工学・技術・環境教育 16件，J201 力学教育に関する導入教育と専門教育 10件，G200 部門一般セッション 2件である。また，各実行組織の報告事項として後述するが，「機械遺産委員会によるパネル展示」と「お湯で動く模型スターリングエンジンの理論と実際」の部門単独 2件の市民対象行事を企画・開催した。9月14日に部門同好会を北海道大学生協で開催し，19名が参加した。

3) No.15-53 部門講演会「技術と社会の関連を巡って：過去から未来を訪ねる」(2015年11月28日，長野工業高等専門学校)を日本設計工学会との共催により開催した。「技術・工学・環境教育」，「機械技術史・工学史」，「社会との連携」，「設計教育・CAD教育」の4つのオーガナイズドセッション，「長野地方の産業技術と技術史」の特別セッションおよび一般セッションを設け，33件の講演が行われ，63名が参加した。

4) No.15-150 見学会「長野県の伝統産業と産業遺産を訪ねて」(2015年11月29日，長野県須坂市および信濃町)を開催し，12名が参加した。

5) 会誌2015年8月号「機械工学年鑑 第22章」を1. 概観(高田一部門長)，2. 技術・工学教育(佐藤智明委員)，3. 技術史・工学史(緒方正則委員)，4. 産業遺産・機械遺産(池森寛委員)，5. 技術者倫理(橋本英樹運営委員)が執筆した。

6) 各種委員会に，大久保英敏委員(新学術誌創刊準備委員会)，吉田敬介委員および佐藤智明委員(トピックス委員)を委員として派遣し，学会運営に協力した。

7) 広報委員会は，部門ニューズレター(NL) No.33を部門ホームページ上に2015年度中に発行する予定である。

8) 機械遺産委員会は，2015年度認定機械遺産候補を選定し，7件が認定された。

9) 機械遺産委員会は，2015年度機械の日における機械遺産認定式典(8月7日，愛知・トヨタ産業技術記念館)に出席し，認定機械遺産7件を解説・報告し，開催に協力した。

10) 機械遺産委員会は，2015年度年次大会(北海道大学)において，市民対象行事として9月13日から15日まで大会会場の北海道大学にてパネルの展示を行った。

11) 機械遺産委員会は，朝日新聞をはじめとする多数の報道機関の機械遺産に関する取材に協力した。

12) 表彰委員会は，11月28日開催の2015年度部門講演会(長野市)後の部門懇親会において，石田正治氏(愛知県立豊川工業高校)に部門賞の業績賞を贈賞した。また，丹治明氏(日本工業大学)・松野建一氏(日本工業大学)に部門一般表彰の優秀講演論文表彰を贈賞した。

13) 表彰委員会は，運営委員会の審議結果に基づき，黒田孝春氏(長野工業高等専門学校)を2015年度組織推薦によるフェロー候補として応募し，理事会において承認された。

14) 表彰委員会は，2015年度部門賞(功績賞，業績賞)と部門一般表彰(優秀講演論文表彰)の候補について1月5日に応募受付を締切り，審議中である。

15) イブニングセミナー企画委員会／イブニングセミナー実行委員会 委員長 2 名他 8 名にて、イブニングセミナー企画委員会のメンバーが中心に講演講師を選出し決定。イブニングセミナー実行委員会のメンバーが中心にイブニングセミナー11 回を明治大学駿河台キャンパスにて開催。イブニングセミナー実行委員会のメンバーのボランティアにより講師に了解を得た上での非公開のアーカイブ映像を撮影。閲覧開示のルールについては今後の課題とする。懇親会の扱いについて論議し費用等も含めて再検討する事とした。

16) 旧技術倫理委員会関係者は、5 月 16 日と 11 月 21 日に特別講演会「技術者のための技術者倫理セミナー」を東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京にて開催した。それぞれ 12 名と 11 名の参加者があった。

17) 旧技術倫理委員会関係者は、セミナー企画および実施のため、4 回の打ち合わせを行った。

18) 工学・技術教育委員会は、2015 年度年次大会（北海道大学工学部）において、エンジンシステム部門と共同で、9 月 13 日に市民対象行事として「お湯で動く模型スターリングエンジンの理論と実際」を実施した。講演者 2 名を除き 14 人の参加者がいた。2016 年月上旬に発行予定のニューズレターにて報告する予定である。

19) 工学・技術教育委員会は、大分大学との共催で、大分県の少年少女科学体験スペース O-Labo を会場に、10 月 10 日に第 5 回低温度差スターリングエンジン競技会・発表会を開催した。7 団体が出品し、18 人が出席した。本行事については 2016 年月上旬に発行予定のニューズレターにて報告する予定である。また、大分合同新聞 2015 年 10 月 22 日夕刊 11 面に写真と共に報道された。

20) 工学・技術教育委員会は、2015 年度年次大会（9 月 13～16 日、北海道大学）において、OS（S202 工学・技術・環境教育）を提案し運営した。また、2015 年度部門講演会（11 月 28 日、長野工業高等専門学校）および関東支部講演会において、技術教育・工学教育セッションの企画立案および運営を行った。

21) 技術教育・工学教育研究会は、過去 10 年間の年次大会における技術教育および工学教育に関する研究発表を集めた講演要旨集の編集作業を行い、記録として保存できる方法について検討した。（原稿執筆者を選定し、改めて原稿執筆を依頼して冊子を作成する予定である）。

22) 持続可能なエネルギー利用に関する工学教育研究会は、日本大学工学部との共催で、第 8 回新☆エネルギーコンテストを開催した。併せて、ホームページの立ち上げ（部門ホームページからリンク）、イベントへの協賛企業（賞品提供及び審査協力）確保、概要集の出版を行った。詳細は 2016 年 1 月発行予定のニューズレターにて報告予定である。

23) 国際会議として、第 8 回経営と技術移転に関する国際会議(The 8th International Conference on Business and Technology Transfer, ICBTT2016) (2016 年 12 月 1-3 日、独マクデブルグ大学)の開催を計画した。

24) 2014 年の開催に協賛した国際会議 ICESTE 2014 Bhutan の研究発表講演論文集とその論文が掲載された学術誌 BJR Vol.4, No.1(2015) を学会図書室に寄贈した。